

佐賀県出身の美術家



ひやくたけかねゆき

百武兼行 ～海外で初めて洋画を学んだ佐賀の人～

百武兼行（1842-1884）は佐賀市出身で、明治時代初め、最後の佐賀藩主・銅島直大の側近として、ヨーロッパ留学に付き添います。そこで油絵（洋画）と出会い、イギリス・ロンドン、フランス・パリ、イタリア・ローマで油絵を学びます。日本人として初めて本格的に海外で洋画を学んだ一人であり、日本の洋画の発展に貢献しました。作品はヨーロッパの油絵の技術である、光と影の表現が際立ち、リアルな質感が特徴です。短い生涯でしたが、新しい文化と技術に触れ、積極的に学ぶ姿勢の大切さを示しています。